

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-14453

(P2014-14453A)

(43) 公開日 平成26年1月30日(2014.1.30)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 B 31/00 (2006.01)	A 4 7 B 31/00	E 4 C 3 4 1
A 4 7 B 21/02 (2006.01)	A 4 7 B 31/00	A
A 4 7 B 96/06 (2006.01)	A 4 7 B 31/00	G
A 4 7 B 57/34 (2006.01)	A 4 7 B 21/02	
A 6 1 G 12/00 (2006.01)	A 4 7 B 96/06	C

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 14 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願2012-152886 (P2012-152886)	(71) 出願人	000000561
(22) 出願日	平成24年7月6日 (2012.7.6)		株式会社岡村製作所
			神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号
		(74) 代理人	100064908
			弁理士 志賀 正武
		(74) 代理人	100094400
			弁理士 鈴木 三義
		(74) 代理人	100149548
			弁理士 松沼 泰史
		(72) 発明者	佐々木 里史
			神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
			株式会社岡村製作所内
		(72) 発明者	榊原 義弥
			神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
			株式会社岡村製作所内
		Fターム (参考)	4C341 JJ01 LL07

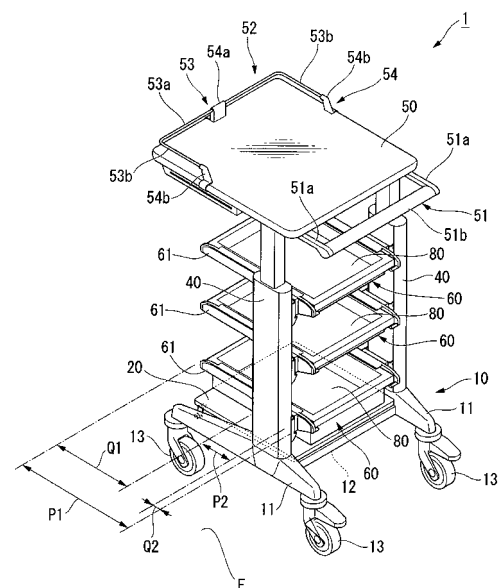
(54) 【発明の名称】 カート装置

(57) 【要約】

【課題】 物品を載置する物品載置部の位置を上下方向に容易に変更することができるとともに、該物品載置部へのアクセスを良好とするカート装置を提供する。

【解決手段】 物品載置部60の前後方向の長さ寸法P1は、支持体40の前後方向の幅寸法P2よりも大きく、隣り合う二つの支持体40又は物品載置部60のいずれか一方には、係止孔が形成され、隣り合う二つの支持体40又は前記物品載置部60の他方には、係止孔に係止される係止部が形成され、支持体40に形成された係止孔又は係止部は、上下方向に離間して複数設けられていることを特徴とする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

床面上を移動する車輪を有するベース体と、
該ベース体から立設され、互いに左右方向に離間して配された複数の支持体と、
隣り合う少なくともいずれか二つの支持体に支持され、物品を載置可能とされた物品載置部とを備えるカート装置であって、

前記物品載置部の前後方向の長さ寸法は、前記支持体の前記前後方向の幅寸法よりも大きく、

前記隣り合う二つの支持体又は前記物品載置部のいずれか一方には、係止孔が形成され、

前記隣り合う二つの支持体又は前記物品載置部の他方には、前記係止孔に係止される係止部が形成され、

前記支持体に形成された前記係止孔又は前記係止部は、上下方向に離間して複数設けられていることを特徴とするカート装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のカート装置において、

前記係止孔及び前記係止部は、前記前後方向に離間して複数形成されていることを特徴とするカート装置。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 に記載のカート装置において、

前記ベース体は、

互いに左右方向に離間して配設された複数の脚部材と、

複数の前記脚部材を連結する連結部材とを有することを特徴とするカート装置。

【請求項 4】

請求項 3 に記載のカート装置において、

前記連結部材に取り付けられ、前記物品を支持可能な物品支持板を備えることを特徴とするカート装置。

【請求項 5】

請求項 4 に記載のカート装置において、

前記物品支持板の前記前後方向の長さ寸法は、前記連結部材の前記前後方向の幅寸法よりも大きいことを特徴とするカート装置。

【請求項 6】

請求項 1 から請求項 5 のいずれか一項に記載のカート装置において、

前記物品載置部の前記支持体に対して前方へ突出する長さ寸法と、前記物品載置部の前記支持体に対して後方への突出する長さ寸法とは、異なっていることを特徴とするカート装置。

【請求項 7】

請求項 1 から請求項 6 のいずれか一項に記載のカート装置において、

前記支持体としては、互いに前記左右方向に離間して配設された一对の外側支持体と、一对の前記外側支持体の中間に配設された中間支持体とを備え、

前記物品載置部は、一对の前記外側支持体のうち一方の前記外側支持体と前記中間支持体との間に設けられた第一物品載置部と、一对の前記外側支持体のうち他方の前記外側支持体と前記中間支持体との間に設けられた第二物品載置部とを有することを特徴とするカート装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、カート装置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

周知のように、オフィス、病院、公共施設等における執務空間においては、執務空間内の様々な場所に移動しながら電子機器を用いて執務を行う場合がある。この場合、電子機器の移動にはカート装置を用い、該カート装置の天板上に電子機器を載置して、執務者がカート装置と共に移動し、随時必要に応じた場所にて執務が行われていた。

【0003】

このようなカート装置としては、下記の特許文献1に記載のものが提案されている。このカート装置は、床面上を走行可能なキャスターが設けられたベースと、該ベースから立設された一对の支柱と、一对の該支柱に支持された天板と、一对の支柱間に設けられたレールと、該レールにスライド可能に支持されたトレーとを備えるものである。

【0004】

また、別のカート装置としては、下記の特許文献2に記載のものも提案されている。このカート装置は、床面上を走行可能なキャスターが設けられたベースと、該ベースから立設され格子状に形成されたフレームと、該フレームに係止されたレールと、該レールにスライド可能に支持されたトレーとを備えるものである。このフレームは、上下方向に離間して配設された複数の横フレームと、左右方向に離間して配設された複数の縦フレームとを有している。

【0005】

これらのカート装置によれば、執務者がトレーに必要な物品を収容しながら執務空間を移動して、所望の場所にてトレーに収容された物品を用いて執務をすることが可能である。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】特許第4345450号公報

【特許文献2】特許第4943251号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

しかしながら、上記の特許文献1に記載のカート装置では、レールが例えばネジ等で支柱に固定されている。よって、執務者が、カート装置の使用態様に依りてレールの上下方向の取付位置を容易に変更することができず、使い勝手が悪いという問題点がある。

【0008】

一方、特許文献2に記載のカート装置では、レールを任意の横フレームに係止させることができるため、トレーを任意の位置に設けることができる。しかし、トレーの左右方向には格子状に形成されたフレームが配設されているため、該トレーに収容された物品を左右方向から取り出し、又は左右方向からトレーに物品を収容することができず、使い勝手が悪いという問題点がある。

【0009】

本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであり、物品を載置する物品載置部の位置を上下方向に容易に変更することができるとともに、該物品載置部へのアクセスを良好とするカート装置を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0010】

上記目的を達成するために、本発明は以下の手段を採用している。

すなわち、本発明に係るカート装置は、床面上を移動する車輪を有するベース体と、該ベース体から立設され、互いに左右方向に離間して配された複数の支持体と、隣り合う少なくともいずれか二つの支持体に支持され、物品を載置可能とされた物品載置部とを備えるカート装置であって、前記物品載置部の前後方向の長さ寸法は、前記支持体の前記前後方向の幅寸法よりも大きく、前記隣り合う二つの支持体又は前記物品載置部のいずれか一方には、係止孔が形成され、前記隣り合う二つの支持体又は前記物品載置部の他方には、

10

20

30

40

50

前記係止孔に係止される係止部が形成され、前記支持体に形成された前記係止孔又は前記係止部は、上下方向に離間して複数設けられていることを特徴とする。

【0011】

このように構成されたカート装置では、物品載置部に形成された係止部（又は係止孔）を支持体に上下方向に離間して形成された複数の係止孔（又は係止部）のうちの係止孔（又は係止部）に係止させることで、物品載置部を支持体に設けることができる。また、当該係止を解除して、係止部（又は係止孔）を他の係止孔（又は係止部）に係止させることで、物品載置部を上下方向の別の位置に設けることができる。よって、物品載置部を支持体から取り外して、上下方向の任意の位置に取り付けることを容易に行うことができる。

10

また、物品載置部の前後方向の長さ寸法が支持体の前後方向の幅寸法よりも大きい場合、該物品載置部へ左右方向からアクセスすることができる。よって、物品載置部への物品の載置及び該物品載置部からの物品の取り出しを良好とすることができる。

【0012】

また、本発明に係るカート装置は、前記係止孔及び前記係止部は、前記前後方向に離間して複数形成されていることが好ましい。

【0013】

このように構成されたカート装置では、係止部と係止孔とは前後方向に複数係止されるため、支持体は物品載置部に載置された物品を安定的に支持することができる。

【0014】

また、本発明に係るカート装置は、前記ベース体は、互いに左右方向に離間して配設された複数の脚部材と、複数の前記脚部材を連結する連結部材とを有していてもよい。

20

【0015】

このように構成されたカート装置では、ベース体は連結部材により連結されているため、カート装置としての剛性を高めることができる。

【0016】

また、本発明に係るカート装置は、前記連結部材に取り付けられ、前記物品を支持可能な物品支持板を備えていてもよい。

【0017】

このように構成されたカート装置では、物品支持板は連結部材に取り付けられているため、ベース体は該物品支持板に載置された物品を安定的に支持することができる。

30

【0018】

また、本発明に係るカート装置は、前記物品支持板の前記前後方向の長さ寸法は、前記連結部材の前記前後方向の幅寸法よりも大きくてもよい。

【0019】

このように構成されたカート装置では、物品支持板の前後方向の長さ寸法が連結部材の前後方向の幅寸法よりも大きい場合、該物品支持板へ左右方向からアクセスすることができる。よって、物品支持板への物品の載置及び該物品支持板からの物品の取り出しを良好とすることができる。

【0020】

また、本発明に係るカート装置は、前記物品載置部の前記支持体に対して前方へ突出する長さ寸法と、前記物品載置部の前記支持体に対して後方への突出する長さ寸法とは、異なってもよい。

40

【0021】

このように構成されたカート装置では、物品載置部上の空間は、左右方向と前方又は左右方向と後方に開放された空間とされるため、該物品載置部への物品の載置及び該物品載置部からの物品の取り出しを良好とすることができる。

【0022】

また、本発明に係るカート装置は、前記支持体としては、互いに前記左右方向に離間して配設された一対の外側支持体と、一対の前記外側支持体の中間に配設された中間支持体

50

とを備え、前記物品載置部は、一对の前記外側支持体のうち一方の前記外側支持体と前記中間支持体との間に設けられた第一物品載置部と、一对の前記外側支持体のうち他方の前記外側支持体と前記中間支持体との間に設けられた第二物品載置部とを有していてもよい。

【0023】

このように構成されたカート装置では、左右方向に第一物品載置部及び第二物品載置部が配設されるため、カート装置に多くの物品を収容することができる。

【発明の効果】

【0024】

本発明に係るカート装置によれば、物品載置部に形成された係止部（又は係止孔）を支持体に上下方向に離間して形成された係止孔（又は係止部）に係止させ、当該係止を解除することで、物品載置部を支持体に設けることができる。よって、物品を載置する物品載置部の位置を上下方向に容易に変更することができるとともに、該物品載置部への接触を良好とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0025】

【図1】本発明の第一実施形態に係るカート装置の斜視図である。

【図2】本発明の第一実施形態に係るカート装置を構成する物品支持板の取付構造を示す分解斜視図である。

【図3】本発明の第一実施形態に係るカート装置を構成する物品支持板を分解した分解斜視図である。

【図4】本発明の第一実施形態に係るカート装置を構成する物品支持板の取付構造を示す分解斜視図である。

【図5】本発明の第一実施形態に係るカート装置を構成する物品載置部の取付構造を示す図である。

【図6】本発明の第一実施形態に係るカート装置を構成する支持体の側面図である。

【図7】本発明の第一実施形態に係るカート装置を構成する物品載置部の斜視図である。

【図8】本発明の第二実施形態に係るカート装置の斜視図である。

【図9】本発明の第三実施形態に係るカート装置の斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0026】

（カート装置）

以下、本発明の第一実施形態に係るカート装置について説明する。

図1に示すように、カート装置1は、床面F上に設けられるベース体10と、該ベース体10から立設された一对の支持体40と、一对の該支持体40に支持された天板50と、一对の該支持体40に支持された物品載置部60とを備えている。

【0027】

執務者は、例えば病院等の執務空間において、カート装置1の天板50及び物品載置部60に物品を載置した状態で、天板50に設けられた操作ハンドル51を把持して操作力を与えることで、床面F上でカート装置1を移動させることが可能となっている。

【0028】

ここで、執務者が操作ハンドル51と対向するように位置して、操作ハンドル51を押す側となる図1の左奥側をカート装置1の前側とし、操作ハンドル51を引く側となる図1の右手前側をカート装置1の後側とする。また、図1に示す紙面の左手前側から右奥側に向かう方向を左右方向と称する。

【0029】

（ベース体）

ベース体10は、互いに左右方向に離間して前後方向に向かって配設された一对の脚部材11と、一对の該脚部材11を左右方向に連結する連結部材12とを有している。

【0030】

脚部材 1 1 の前端及び後端の下面には、床面 F に直交する鉛直軸回りに旋回可能なキャスター（車輪） 1 3 がそれぞれ設けられている。このキャスター 1 3 により、カート装置 1 は前後方向及び左右方向に移動可能とされている。

【 0 0 3 1 】

連結部材 1 2 は脚部材 1 1 の前後方向の中央よりも後方に設けられ、この連結部材 1 2 の上面には物品を支持可能な物品支持板 2 0 が取り付けられている。

【 0 0 3 2 】

図 2 及び図 3 に示すように、物品支持板 2 0 は、上面が床面 F と平行な状態となるとともに略矩形状に形成され、連結部材 1 2 に取り付けられるとともに、取付部材 2 1 を介して脚部材 1 1 の前端に取り付けられている。

10

【 0 0 3 3 】

詳細には、連結部材 1 2 には、上下方向に貫通する第一貫通孔 1 2 a が、左右方向に離間して複数形成されている。そして、連結部材 1 2 の下方から第一ビス 3 1 が第一貫通孔 1 2 a に挿通され物品支持板 2 0 に螺合されることで、物品支持板 2 0 は連結部材 1 2 に取り付けられている。

【 0 0 3 4 】

また、図 4 に示すように、取付部材 2 1 は、脚部材 1 1 の下面に配設される下壁部 2 2 と、該下壁部 2 2 から上方に屈曲して形成された屈曲壁部 2 3 と、該屈曲壁部 2 3 の上端から屈曲して形成され物品支持板 2 0 の下面に配設される上壁部 2 4 とを有している。この下壁部 2 2 と上壁部 2 4 とは、屈曲壁部 2 3 から反対方向に延出している。

20

【 0 0 3 5 】

下壁部 2 2 及び上壁部 2 4 には、それぞれ上下方向に貫通する第二貫通孔 2 5、第三貫通孔 2 6 が穿設されている。そして、下壁部 2 2 の下方から第二ビス 3 2 が第二貫通孔 2 5 に挿通され脚部材 1 1 に螺合されるとともに、上壁部 2 4 の下方から第三ビス 3 3 が第三貫通孔 2 6 に挿通され物品支持板 2 0 に螺合されることにより、物品支持板 2 0 は脚部材 1 1 に取り付けられている。

【 0 0 3 6 】

図 3 に示すように、物品支持板 2 0 の前後方向の長さ寸法 N 1 は、連結部材 1 2 の前後方向の幅寸法 N 2 よりも大きい。また、図 2 に示すように、物品支持板 2 0 の支持体 4 0 に対して前方へ突出する長さ寸法 M 1 は、支持体 4 0 に対して後方への突出する長さ寸法 M 2 よりも大きい。

30

【 0 0 3 7 】

（支持体）

図 1 に示すように、支持体 4 0 は互いに左右方向に離間した一対で構成され、それぞれの支持体 4 0 は脚部材 1 1 の前後方向の中央よりも後方から立設されている。

図 1、図 5 及び図 6 に示すように、支持体 4 0 における対向する面、すなわち支持体 4 0 の左右方向内側の面には、上下方向に離間して複数の係止孔 4 1 が形成されている。この係止孔 4 1 は、上下方向に長い長孔であり、前後方向に離間して一対形成されている。また、この係止孔 4 1 には、後述する物品載置部 6 0 が係止されている。

40

【 0 0 3 8 】

（天板）

図 1 に示すように、天板 5 0 は、上面が床面 F と平行な状態となるとともに略矩形状に形成され、支持体 4 0 に支持されている。そして、上面は薬品等の物品が載置可能であり、又はカルテ等の記載が可能な作業台として使用することができる。この天板 5 0 の後側には、操作ハンドル 5 1 が設けられている。

【 0 0 3 9 】

操作ハンドル 5 1 は、天板 5 0 の後部の左右両側から後方に突設された一対のハンドル取付部 5 1 a と、一対の該ハンドル取付部 5 1 a を連結するハンドル本体 5 1 b とを有している。執務者は、該ハンドル本体 5 1 b を把持することで、カート装置 1 を床面 F 上に移動させることができる。

50

【0040】

また、天板50の上面には、ワイヤー部材52が設けられている。ワイヤー部材52は、線状に形成されたワイヤー本体53と、該ワイヤー本体53を天板50に固定する固定部材54とを有している。

【0041】

ワイヤー本体53は、天板50の上方の前縁に配設される前ワイヤー53aと、該前ワイヤー53aの両端から屈曲して形成された一对の側ワイヤー53bとを有している。

【0042】

固定部材54は、前ワイヤー53aの略中央に設けられた前固定部54aと、側ワイヤー53bの端部に設けられた側固定部54bとを有している。前固定部54aは前ワイヤー53aに係合されるとともに下端が天板50に固定され、側固定部54bは側ワイヤー53bに係合されるとともに下端が天板50に固定されている。

【0043】

ワイヤー本体53が固定部材54により天板50に固定されることにより、執務者が操作ハンドル51を把持してカート装置1を移動させても、該天板50に載置された物品の落下が防止される。

【0044】

(物品載置部)

図1及び図7に示すように、物品載置部60は上下方向に離間して複数設けられ、本実施形態では3個設けられている。この物品載置部60は、支持体40に支持され前後方向に向かって延在する左右一对のレール61と、該レール61に対して前後方向にスライド可能とされ物品を載置可能とされたトレー80とを有している。

この物品載置部60の前後方向の長さ寸法P1は、支持体40の前後方向の幅寸法P2よりも大きい。

【0045】

レール61は、前後方向に向かって延在するレール本体62と、該レール本体62に設けられた係止体71とを有している。

【0046】

レール本体62は、トレー80が載置されるレール載置部63と、該レール載置部63から立設されたレール立設部64と、該レール立設部64から屈曲して形成されたレール上壁部65とを有している。

【0047】

これらレール載置部63、レール立設部64及びレール上壁部65により囲まれた空間内に、トレー80の左右方向縁部が配設されている。

【0048】

係止体71は、レール61のレール立設部64に設けられた係止取付部72と、該係止取付部72に設けられた係止基部73と、該係止基部73の前後方向両端から左右方向外側に向かって屈曲して形成された一对の係止屈曲部74と、一对の該係止屈曲部74の端部に設けられた係止部75とを有している。

【0049】

係止部75は、鉤状をなしており、係止屈曲部74の端部に上下方向に離間して一对設けられている。図5に示すように、この係止部75は、トレー80の支持体40の支持される面に形成されており、支持体40に形成された複数の係止孔41のうち任意の係止孔41に係合可能とされている。

【0050】

図7に示すように、トレー80は、上方が開放された箱状部材であり、底部をなすトレー底壁部81と、該トレー底壁部81から立設された前後一对のトレー前壁部82及びトレー後壁部83と、該トレー前壁部82とトレー後壁部83とを連結する一对のトレー側壁部84とを有している。このトレー側壁部84が、レール載置部63の上面を前後方向にスライド可能とされている。

10

20

30

40

50

【0051】

図1に示すように、レール61の係止部75が支持体40に形成された係止孔41に係止された状態において、物品載置部60の支持体40に対する前方への突出長さQ1は、物品載置部60の支持体40に対する後方への突出長さQ2よりも長い。

【0052】

また、図1に示す状態から、トレー80はレール61に対して前方及び後方のいずれの方向にもスライド可能とされている。

【0053】

このように構成されたカート装置1では、レール61に形成された係止部75を支持体40に形成された一の係止孔41に係止させ、当該係止を解除して他の係止孔41に係止させることができる。このようにトレー80の取り付け取り外しを、係止部75と係止孔41との係止とその取り外しで行うことができるため、トレー80を支持体40から取り外して、上下方向の任意の位置に取り付けることを容易に行うことができる。

10

【0054】

また、トレー80の前後方向の長さ寸法P1が支持体40の前後方向の幅寸法P2よりも大きいため、該トレー80へ左右方向からアクセスすることができる。よって、トレー80への物品の載置及び該トレー80からの物品の取り出しを良好とすることができる。

【0055】

また、係止部75と係止孔41とは前後方向に一对係止されるため、支持体40はトレー80に載置された物品を安定的に支持することができる。

20

【0056】

また、一对の脚部材11は連結部材12により連結されているため、カート装置1としての剛性を高めることができる。

【0057】

また、物品支持板20は連結部材12及び脚部材11に取り付けられているため、ベース体10は該物品支持板20に載置された物品を安定的に支持することができる。

【0058】

また、物品支持板20の前後方向の長さ寸法N1が連結部材12の前後方向の幅寸法N2よりも大きいため、該物品支持板20へ左右方向からアクセスすることができる。よって、物品支持板20への物品の載置及び該物品支持板20からの物品の取り出しを良好とすることができる。

30

【0059】

また、トレー80の上空間は、左右方向及び前方に開放された空間とされるため、該トレー80への物品の載置及びトレー80からの物品の取り出しを良好とすることができる。

【0060】

また、カート装置1の後部には、一对の脚部材11及び連結部材12で囲まれた空間があるため、操作ハンドル51を把持する執務者は下肢をこの空間部分に置くことができ、カート装置1の使い勝手を良好とすることができる。

【0061】

40

(第二実施形態)

以下、本発明の第二実施形態に係るカート装置201について、図8を用いて説明する。

この実施形態において、前述した実施形態で用いた部材と同一の部材には同一の符号を付して、その説明を省略する。

【0062】

第一実施形態におけるカート装置1では、一对の該支持体40間に物品載置部60が配設されている。一方、本実施形態におけるカート装置201では、三本の支持体241, 242, 243間に物品載置部261, 262が左右方向に並んで配設されている。

【0063】

50

支持体 2 4 1, 2 4 2, 2 4 3 としては、左右方向に離間して配設された一对の外側支持体 2 4 1, 2 4 2 と、一对の該外側支持体 2 4 1, 2 4 2 の左右方向中央に配設された中間支持体 2 4 3 とを備えている。

【0064】

外側支持体 2 4 1, 2 4 2 は脚部材 1 1 から立設され、中間支持体 2 4 3 は連結部材 2 1 2 の左右方向略中央から立設されている。

【0065】

物品載置部 2 6 1 は、左側に配設された外側支持体 2 4 1 と中間支持体 2 4 3 との間に設けられた第一物品載置部 2 6 1 …と、右側に配設された外側支持体 2 4 2 と中間支持体 2 4 3 との間に設けられた第二物品載置部 2 6 2 …とを有している。

10

【0066】

第一物品載置部 2 6 1 …、第二物品載置部 2 6 2 …はそれぞれ上下方向に離間して複数設けられ、本実施形態では 6 個ずつ設けられている。

【0067】

このように構成されたカート装置 2 0 1 では、左右方向に第一物品載置部 2 6 1 …及び第二物品載置部 2 6 2 …が配設されるため、カート装置 2 0 1 に多くの物品を収容することができる。よって、カート装置 2 0 1 としての収納力を高めることができ、利便性が高い。

【0068】

また、カート装置 2 0 1 の左右方向略中央には中間支持体 2 4 3 が設けられているため、カート装置 2 0 1 の左右方向の長さ寸法が大きくなった場合でも、その剛性を高めることができる。

20

【0069】

(第三実施形態)

以下、本発明の第三実施形態に係るカート装置 3 0 1 について、図 9 を用いて説明する。

この実施形態において、前述した実施形態で用いた部材と共通の部材には同一の符号を付して、その説明を省略する。

【0070】

第二実施形態におけるカート装置 2 0 1 では、三本の支持体 2 4 1, 2 4 2, 2 4 3 間に物品載置部 2 6 1, 2 6 2 が左右方向に並んで配設されている。一方、本実施形態に係るカート装置 3 0 1 では、外側支持体 2 4 1 と中間支持体 2 4 3 との間には物品支持板 3 2 0 が設けられている。

30

【0071】

物品支持板 3 2 0 は、その前端が取付部材 2 1 を介して脚部材 1 1 に固着され、その後端が第一実施形態と同様に下方からビス（不図示）が螺合され連結部材 2 1 2 に固着されている。

【0072】

このように構成されたカート装置 3 0 1 では、物品支持板 3 2 0 の上方が天板 3 5 0 までの上下方向に長い空間とされるため、図 9 に示すように該空間に高さ寸法の大きい物品を載置することができる。

40

【0073】

また、物品支持板 3 2 0 は連結部材 2 1 2 及び脚部材 1 1 に固着されているため、ベース体 3 1 0 は該物品支持板 3 2 0 に載置された物品を安定的に支持することができる。

【0074】

また、このようにカート装置 3 0 1 の左側には高さのある物品を収容し、右側には前後方向にスライド可能とされた物品載置部 2 6 2 …を複数設けることができる。よって、カート装置 3 0 1 としての使い勝手を向上させることができる。

【0075】

また、上述した実施の形態において示した動作手順、あるいは各構成部材の諸形状や組

50

み合わせ等は一例であって、本発明の主旨から逸脱しない範囲において設計要求等に基づき種々変更可能である。

【0076】

例えば、上記に示した実施形態では、支持体40に係止孔41が形成され、物品載置部60に係止部75が形成されているが、本構成を逆としてもよい。すなわち、支持体40に上下方向に離間して複数の係止部75が形成され、物品載置部60に係止孔41が形成されていてもよい。

【0077】

このような構成でも、係止孔41を支持体40に形成された一の係止部75に係止させ、当該係止を解除して他の係止部75に係止させることができる。このようにトレー80の取り付け取り外しを、係止部75と係止孔41との係止とその取り外しで行うことができるため、トレー80を支持体40から取り外して、上下方向の任意の位置に取り付けることを容易に行うことができる。

【0078】

また、物品支持板20、物品載置部60の支持体40に対する前方への突出長さM1、Q1よりも、物品支持板20、物品載置部60の支持体40に対する後方への突出長さM2、Q2の方が長くてもよい。

この場合には、物品載置部60の上空間は、左右方向及び後方に開放された空間とされるため、操作ハンドル51を把持する執務者側である後側に収容空間を設けることができる。

【0079】

また、物品載置部60が、板状部材の左右方向端部に係止部75が形成される構成としてもよい。このような場合でも、物品載置部を支持体40から取り外して、上下方向の任意の位置に取り付けることを容易に行うことができる。

【0080】

また、支持体40が上下方向に伸縮可能な構成であってもよい。この場合には、支持体40を伸張させることで天板50の位置を高くすることができるとともに、上下方向に多くの物品載置部60を設けることができ、カート装置1として利便性と収納力を高めることができる。

【0081】

また、係止孔41の上下方向に配設間隔を短くすることで、物品載置部60を上下方向に密に取り付けることができる。

【0082】

係止部75と係止孔41の縁部との間に、トレー80の上下移動を規制する部材（不図示）を配設してもよい。

【符号の説明】

【0083】

1…カート装置

10…ベース体

13…キャスター（車輪）

11…脚部材

12…連結部材

20…物品支持板

40…支持体

41…係止孔

60…物品載置部

75…係止部 F…床面

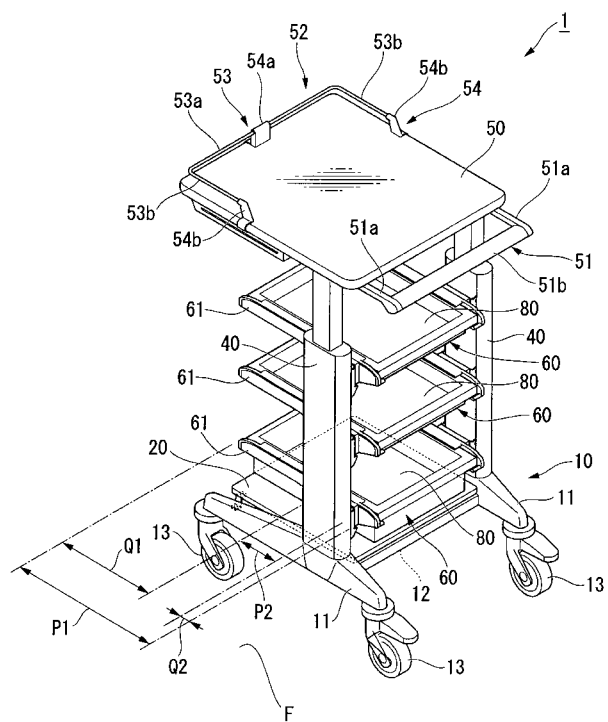
10

20

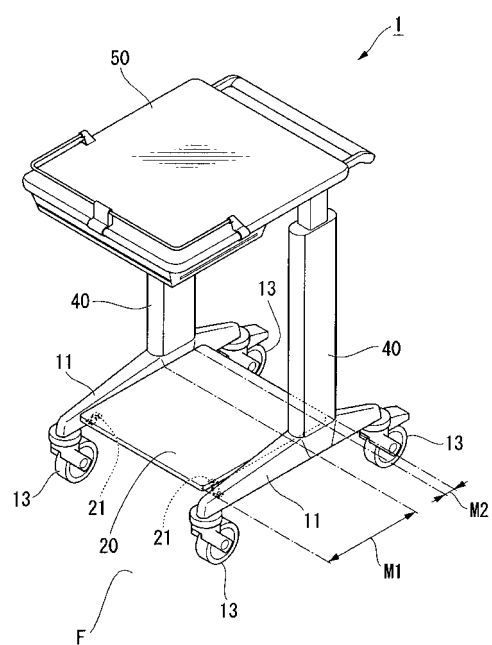
30

40

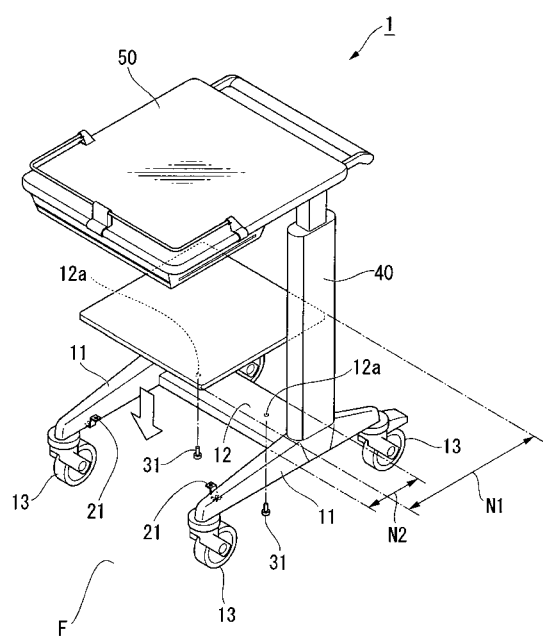
【图 1】



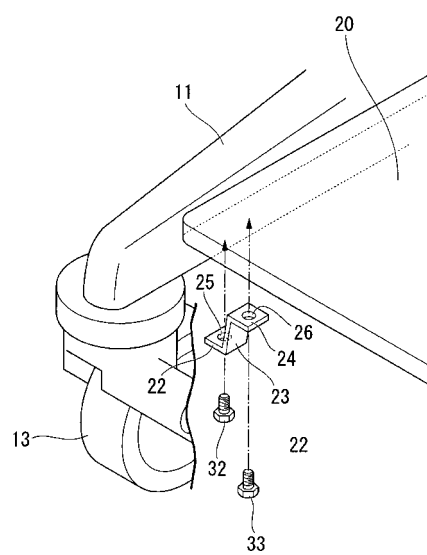
【图 2】



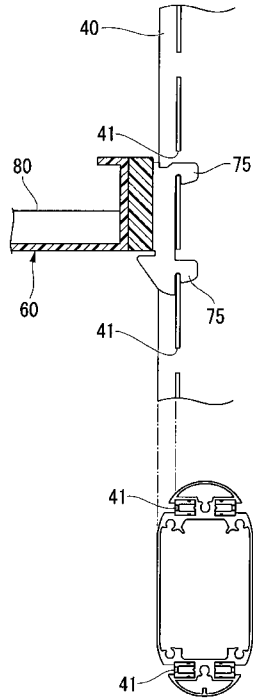
【 図 3 】



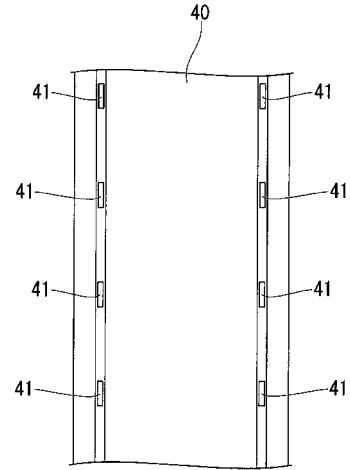
【 図 4 】



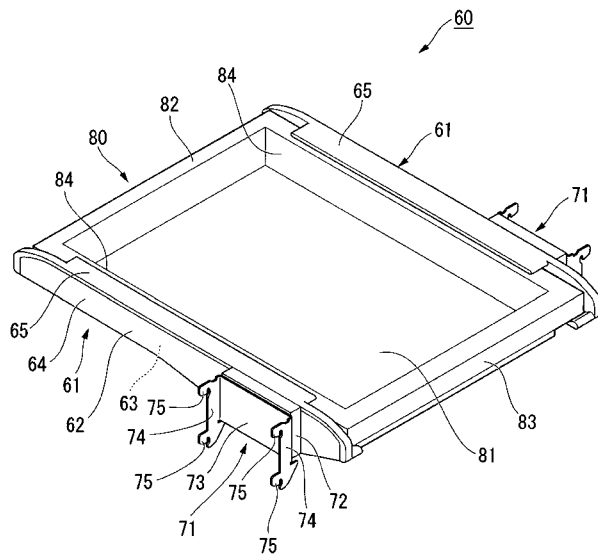
【図 5】



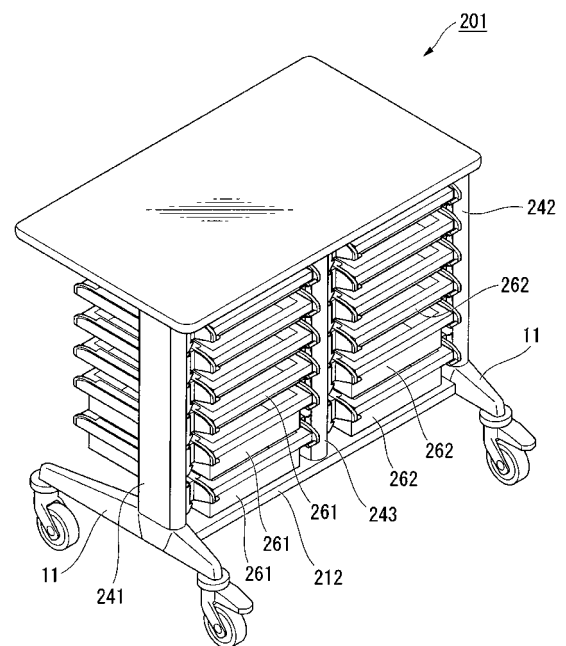
【図 6】



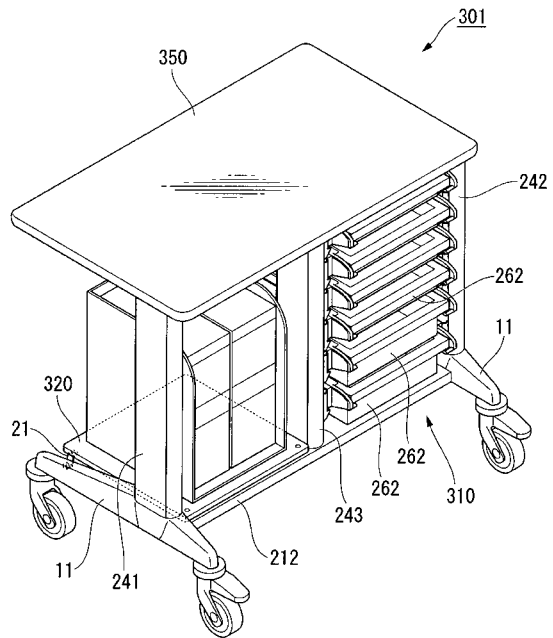
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.

F I

テーマコード (参考)

A 4 7 B 57/34

A 6 1 G 12/00

C